

文化的景観を構成する要素の特性 (その3)

—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究—

正会員 ○森下 泰敬* 姫野 由香***
佐藤 誠治** 甲斐 一樹*

| | | |
|-------|-------|--------|
| 文化的景観 | 生活・生業 | 景観構成要素 |
| 湯けむり | 温泉 | |

1. 研究の背景と目的

人々の生活や風土に深く結びついた地域特有の景観の重要性が見直されるとともに、その保護の必要性が認識されるようになってきた動き^{注1)}を受けて、大分県別府市でも、豊かな温泉資源による様々な産業が古くから発達し、その生活及び生業により形成された湯けむり景観を「重要文化的景観」として後世に残すために一体的に保護しようという取り組みが始まっている。なかでも重点的に調査や取り組みがなされているのが、別府市鉄輪温泉地区と明礬温泉地区である。また、両地区を対象とした既往の調査研究^{1) 2)}では、市史や古写真や古地図を中心とした文献調査、住民や外来者への各種調査による意見分析によって、文化的景観を構成し得る景観構成要素を抽出している。これらの景観構成要素は人々の生活・生業によって相互に関係付けられて存在し、当該地区の景観が成り立っている。ゆえに文化的景観を保存するためには、単に景観を構成する各要素を保存するだけではなく、それらの関係性や人々の生活・生業を理解し、その保全に努める必要があるといえる。

このような観点から、既往研究の一部^{3) 4)}では、文化的

景観を構成する上で重要な要素の分布傾向による地区景観の「構成的特徴」^{注2)}を明らかにしている。そこで本報告では、より詳細な要素の分布と利用傾向に加え、当該地区における人々の行動調査やヒアリング調査を行うことで、生活・生業と景観の相互関係を明らかにすることを目的としている。

2. 研究の方法

本報その3では、既往研究^{3) 4)}で明らかとなった両地区の構成的特徴が顕著に見てとれる周辺や、その特徴を説明する主要な要素を特定^{注3)}し、それらの生活や生業の変遷による特性の変化を、建築図面を含む拡大図によって整理し、明らかにする。

3. 特徴的な景観構成要素の利用変遷と空間的特性

地域の構成的特徴を説明する要素のうち、本報では主に「(貸間)旅館」について詳説する。

○鉄輪温泉地区：図1の旅館Fは、現在でも3泊から数カ月の長期滞在者を受け入れ、食事を提供しない貸間旅館である。旅館内南東棟の母屋1階に経営者の住宅が併設されており、これと客間を繋ぐセミパブリックな空間

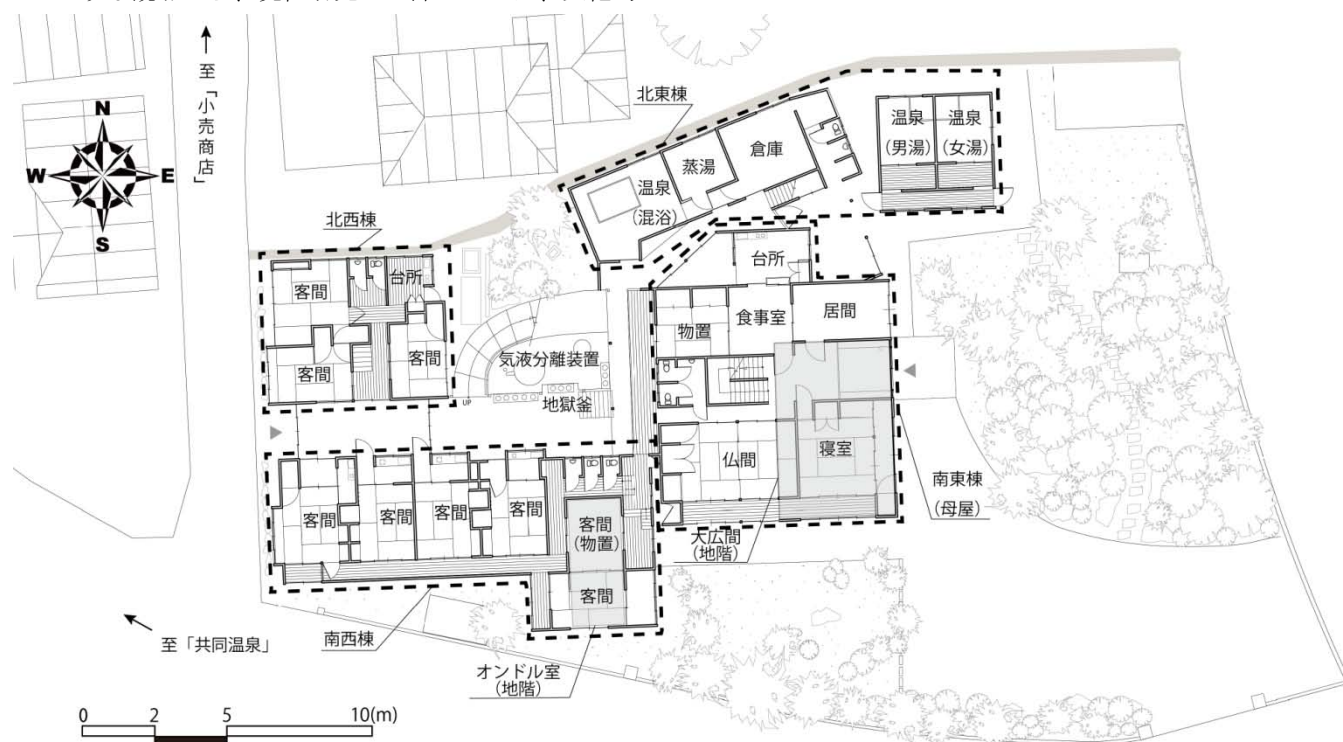


図1 鉄輪温泉地区 貸間旅館F 建築平面図

Characteristic of the Elements constituting the Cultural Landscape.

HIMENO yuka, MORISHITA yasutaka
SATO seiji, KAI kazuki

には、食材を調理するための「地獄釜」や洗濯物を干すための「オンドル室」が設けられている。長期滞在者はこれらを利用するために必要な食材や洗剤などの日用品を、最寄りの「小売商店」で購入して生活をしていることがわかる。また湯治客の増加に伴い、母屋を中心に南西・北西棟の客室、北東棟の浴場の増築を繰り返している。以前は専用浴場はなく、湯治客等は近くの「共同温泉」を利用していたが、旅館内に内湯が整備されることで利用されなくなっている。さらに地階には大広間があるが、これも湯治客の減少によって現在は倉庫として利用されている。

○明礬温泉地区：図2の旅館Yは1～2泊の短期滞在者のみを受け入れ食事を提供する家族経営の旅館であり、同地区の典型的な旅館である。薬師湯跡や鶴寿泉前から国道500号に伸びる道をはさんで1件の旅館Yが立地し、その沿道には住宅や家族経営の「旅館」が複数分布するなど、住民や湯治客の往来の多い地区の目抜き通りであったことが推察される。母屋1階は経営者家族の住宅を兼ねており、敷地北側の棟は、かつて湯治客の多い時期は客室であったが、現在は住宅や倉庫として使われている。また、滞在者専用の緑礬泉などの内湯も設けられており、現在でも通りを挟んだ宿泊客の往来がみられる。

さらに鶴寿泉前には、植栽やベンチの配置や便所も外からの利用するよう整備される等、現在でも宿泊客や住民の動線が交錯する通りであるといえる。

4. 総括

その3では、両地区において地区の構成的特徴と主に「旅館」の平面特性の関係性を整理した。①「共同温泉」や「小売商店」へ至る沿道に宿泊客の出入り口が設けられていること。②旅館経営者の住宅が母屋1階に併設されており、宿泊客の減少により客室にも住宅機能が整備されていること。③敷地内のセミパブリック空間に「地獄釜」や「内湯」等が併設されていることが明らかとなった。

【参考文献】

- 1) 福井彩乃、佐藤誠治、姫野由香「古写真にみる景観変容と選考景観の構図の特性 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊, pp.981~982, 2009.8
- 2) 別府市教育庁生涯学習課「平成20年度湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書」2009.3
- 3) 別府市、「別府市誌」第1巻～第3巻、2003.7
- 4) 森下泰敬、渡邊祥衣、佐藤誠治、姫野由香「景観構成要素と生活・生業の関係性の導出 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究（その1、2）」2011.3

【補注】

- 注1) 2005（平成17）年：文化財保護法の一部改正により「重要文化的景観」の保護制度が制定された。
- 注2) 鉄輪温泉地区では「共同温泉」を中心とした貸間等の「旅館」や鮮食品や生活雑貨を販売する「小売商店」が立地する組み合わせが地区内で複数確認されている。また、明礬温泉地区では、鉄輪と同様に「共同温泉」を中心とした「旅館」の集積傾向はみられるものの、それらと関連した小売商店の分布は現在では見られず、藩制時の天領と森藩領を隔てた平田川によって「湯の花小屋」の分布が二分されている点が、各地区の特徴として挙げられている。



図2 明礬温泉地区 旅館Y 建築平面図

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程 学士（工学）
 **大分大学工学部福祉環境工学科教授 工学博士
 ***大分大学工学部福祉環境工学科助教授博士（工学）

* Graduate Student, Oita Univ
 ** Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng
 *** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng